



【失敗からふたたび回復させてくださる神様】

本日の聖書本文:ヨハネの福音書21章1-14節・暗唱聖句:ヨハネの手紙第一5章3-5節 説教者:鄭南哲牧師

我々は生きている間、人はみんな成功を望みます。今年も自分の願いどおり、物事がうまく行き、成功を願ってない人はだれもいないと思います。だれも失敗を望む人はいないでしょう。しかし、過ぎ去った過去を振り返って見れば、成功した時もあるれば、思わぬ辛い失敗の経験もされた時もあると思います。神ではない限界のある人間である以上、失敗をするのはある意味当然かもしれません。人生において様々な失敗から避けられることはできないと思います。なので大切なのは決して失敗しないことではなく、失敗に対して我々はどうやって反応していくのかではありませんか。失敗をどうやって扱うのか、管理するかが大切です。失敗のため人生の落伍者(らくごしゃ)になる者もいれば、むしろ失敗したためさらにうまく乗り越えた人もいます。

失敗が好きな人はだれもいません。人生の中である失敗は本当につらい経験です。苦しい感情を芽生えさせます。覚えたくもなく、二度と味わいたくない経験です。ですから、小さい失敗でもむやみに扱ってはいけません。当たり前かもしれないから失敗を軽んじく対処すると人生に致命傷(ちめいしょう)を与えるからです。

何度も申し上げますが、失敗を経験しない人はだれもいません。一度も失敗してない人は誰もいません。問題は失敗の前で挫折してやる気もなくし座り込んでしまうことです。我々は失敗を乗り越えて勝利しなければなりません。今年もかならず、勝利の一年となるように願っています。それが神様の御心だからです。失敗の中で、我々を慰め、ふたたび起こされ勝利に導かれることこそ神の子供たちへの祝福であり、特権であることを信じます。

<本文>

今日の聖書本文であるヨハネの福音書21章は失敗の傷とその失敗を癒してくださる癒しの教科書的な箇所です。ヨハネの福音書を深く黙想すればするほど我々は人生に対するすばらしい洞察力(どうさつりょく)を得る事ができます。失敗を癒す神様の恵みを経験する事ができます。神様は失敗した人をどうやって慰めたのでしょうか。神様は失敗した人をどうやって立ち上がらせたのでしょうか。神様は失敗を通してどうやって再び勝利への道に歩ませたのでしょうか。本文に出て来る失敗者であった弟子ペテロを慰め、癒し、回復させるイエス様の愛をとおして質問への答えを共に探して見ましょう。

1. 失敗の影響力

神様の愛はさきに近づいて来られる愛です。神様は失敗した人を訪ねて来て慰めておられることを今日の御言葉を通して分かる事が出来ます。先に手を差し伸べ引き寄せてくださいます。これがまさに神様の愛と人間の愛の違いではないかと思えます。人は成功した人を好みます。しかし、その人が失敗したら遠ざかって、距離を置こうとします。時には批判までします。その反面、神様は失敗した人を哀れみ、先に近づいて来てくださり、彼らを失敗から回復の道へ導いて下さるお方です。本文の1節で、よみがえられたイエス様は失敗を味わったペテロと弟子たちにみずから訪ねて来て下さいました。“この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現わされた。その現わされた次第はこうであった。”(ヨハネ21:1)

イエス様がペテロに現された理由は、彼が敗北者の姿で生きている事をご存知だからです。そして失敗からの影響も御存知でした。我々は失敗を軽んじてはいけません。なぜなら、失敗が与える影響力があるからです。例え、旧約の始めの人であったアダムの失敗は自分だけではなく、人類を苦しめました。“そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、それというのも全人類が罪を犯したからです。”(ローマ5:12)

旧約聖書のヒーローであるダビデ王の失敗はイスラエルの国全体に影響を与えます。そして彼の家族、子供たちにまで影響を与えました。たった一度の失敗だったのに、その影響力はまさしく恐ろしいものでした。今日の本文に出てくるペテロも同じく、自分だけの失敗に終わる事ではありませんでした。彼の失敗は他の弟子たちと共同体全体に影響を与えました。

本文の2-3節をみると、テベリヤの湖畔の所にはペテロだけではなく、トマスとナタナエル、ゼバダイの子たち、そして、ほかの弟子二人もペテロと一緒にいたことが分かります。これはペテロの失敗というのは自分だけで終わるのではなく、ほかの弟子たちの信仰とそして彼らの人生にまで影響を与えている事を予想する事ができるでしょう。

イエス様が望んでおられる方向ではなく、ペテロが行く方向にほかの弟子たちも向かっているのです。イエス様がくださるビジョンと信仰を握って前進し続けた彼らが今は立ち止まっているのです。いや、むしろ、信仰のなかった以前の生活に戻ってしまったのです。失敗は我々をむかし信仰のなかった生活に戻させます。ペテロが以前、魚を取っていた生活に戻ったのと同じようにです。失敗は我々も無力にさせます。失敗は恐れを抱かせます。イエス様が十字架につけられたとき、弟子たちはイエス様を否定し、みんな逃げてしまいました。彼らを捕らわれたのは失敗の恐れでした。このように一度失敗した人にはふたたび、失敗することへの恐れが来ます。

そんなわけで、よみがえられたイエス様が弟子たちにふたたび、現れた時、一番先に、彼らに平安を与えて下さったのです。失敗は敗北意識をもたらせます。そういうわけで、新しいことを試すことをためらうように考えを否定的にさせます。安定という洞窟(どうくつ)にもぐりたがっています。失敗というのは目的を、もしくはビジョンを失わせます。前を進むことをふさいで、立ち止まらせます。そして、被害妄想をもたらせます。おそらく、ペテロは自分を困らせた女のはしために対する被害意識も強かったかもしれません。このように失敗を経験した人が犯しやすい誤謬(ごびゅう)の一つは責任を転嫁することです。自分で

はなくほかの人のせいにしてたり、回りの環境のせいにしてます。

ペテロは炭火(すみび)の前でイエス様を否定しました。そういうわけで、ペテロは炭火が嫌いになったかもしれません。イエス様を否定しただけでなく、呪った後、にわとりが鳴きました。おそらく、彼の失敗の傷が癒される前まで、ペテロは鶏の鳴き声だけでなく、鶏肉まで嫌いになってた可能性は高かったと思います。失敗は人生を見る目を暗くさせます。しきりに人生を否定的に、悲観的に考えさせます。そういうわけで、失敗というものはどんな形で我々に影響を与えます。ですから、失敗後の人々の人生をみると、失敗以前よりもっと頑張ろうとする人もいれば、挫折して人生の落伍者として転落してしまう場合も見て聞いています。

人生にこんなに影響を与えている失敗を神様は真剣に扱ってくださいます。イエス様は失敗したペテロに訪ねて来て彼の失敗の傷を慰めながら触られました。倒れている彼を再び立ち上げさせます。そして、立ち止った彼らを前を進むように回復させてくださいました。

2. 失敗の原因

イエス様はペテロの失敗を癒すために失敗に立ち向かわせます。失敗の場面を再演(さいえん)させることによりその失敗に直面させます。ペテロはイエス様を三度も否定した状況を思い出させます。その一つの物が炭火(すみび)です。イエス様は炭火を起こしておいて、彼を誘っています。“こうして彼らが陸地に上がった時、そこに炭火とその上に載せた魚と、パンがあるのを見た。”(ヨハネ21:9)

そして、もう一つのペテロの失敗を思い出させる物が数字‘三’でした。ペテロはイエス様を三度否定しました。それで、イエス様は復活された後、ペテロに三度目現されます。“イエスが、死人の中からよみがえってから、弟子たちにご自分を現されたのは、すでにこれで三度目である。”(ヨハネ21:14)

そして、ヨハネの福音書21章15-17節でペテロに三度も同じ質問をされました。ペテロとともにいた弟子たちが取った魚も153匹です。やはり3という数字が出ています。イエス様はペテロが自分の失敗に直面してほしかったのです。あらゆる問題の解決策は問題から逃げるのではなく、問題に立ち向かう時、得られます。失敗も同じです。失敗から癒される道は正直にそれを認めることです。そして大切なのは自分の失敗への責任を自分が負おうとする姿勢を持つことです。もちろん、すべての失敗が自分から生じるのではないことは当然です。しかし、その失敗に反応する責任は我々にあると思います。

苦しみから避けたい時、人間は、卑怯的になりやすいです。むしろ、その苦しみを受け入れ、対面する時、私たちはもっとそれによって成長し、問題と失敗に対して正しく、冷静になると信じます。ですから、失敗した時はあまりあせらないで下さい。しばらく、立ち止まって自分の失敗に対してその原因を自分の中でかえりみる時間を持ってみてください。そのとき、ようやくまことの悔い改めと変化がともなわれると信じます。

ルカの福音書5章を見ると、似てる場面として初めてイエス様がペテロに訪ねて来られた時が出ています。ペテロは夜通し頑張りましたが、魚(うお)を取る事ができませんでした。そのとき、イエス様が深いところに行って網をおろすようにと言われました。ペテロが主のお言葉に従って深いところに行って網をおろした時、たくさんの魚を取る事ができたのです。ようするに、奇跡を経験したのです。奇跡を経験したペテロは自分が罪人だとイエス様に素直に告白しました。

“これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから。」と言った。”(ルカ5:8)

奇跡を経験した時、主の前で謙遜にひざまずいたペテロは、イエス様を三度否定し失敗した後、主はもう一度、自分と立ち向かうように環境を作って下さいました。崩されたところを再建することとは自分のあやまちを認め、心から悔い改めることから始まります。

もちろん、すべての失敗がすべて罪から来ることではありません。しかし、我々が失敗した時、その失敗を自分を直視(ちよくし)し、その原因を一つ一つ自分から探す時こそ、新しい変化が起こり始めます。“自分のそむきの罪を隠すものは成功しない。それを告白して、それを捨てる者はあわれみを受ける。”(箴言28:13)

愛する信仰の家族のみなさん！失敗は停止(ていし)の時ではなく、方向転換の時です。悔い改めというのは方向を変えるという意味です。失敗したなら、一度立ち止まって、次の方向を変えれば良いのです。その時、神様の癒しのみわざが起きると信じます。問題は自分の失敗を自分以外のところから見つけようとするためさらに、解決もできず、さらに落ち込んでしまい、無気力になってしまうパターンが多いのではないのでしょうか。

<ペテロが失敗した原因>

それでは、イエス様の一番弟子であり、だれより熱心だったペテロ、なぜ失敗してたのでいしょうか。考えて見ましょう。

一つ目、ペテロは主の御言葉に注意深く向けられなかったため失敗してしまいました。

イエス様はペテロが失敗する前にペテロがもうすぐ3度もすでにイエスキリストを知らないと否認することについて預言された時、もっと注意を払って自分に下さる主の御言葉として耳を傾けるべきでした。(ルカ22:31-34)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！実際ペテロはイエス様の御言葉を聞かなかったわけではありません。聞くのは聞きましたが、主の御言葉を真剣に聞かなかったのが問題です。今語られている御言葉が自分に当てられるとは考えなかったのです。慣れてくるイエス様の御言葉の重さと深さを考えなかったため、彼はむやみに勝手に誓ったりしてしまいました。“みことばをさげすむ者は身を滅ぼし、命令を敬う者は報いを受ける。”(箴言13:13)

二つ目、ペテロは自己過信のため失敗してしまいました。ペテロは自分自身に対して自信満々でした。確かに自分の中にある弱さを知っていながらも、いつの間にかに自慢してしまいました。もちろん、自分を過少評価したり、自己卑下する間違っただ行動を取ることとは区別しなければなりません。正しく自身を持つことは成功の必須要素でもあります。しかし、やりすぎた自己過信は信仰にとっても致命的です。神を信じる者たちが神に頼らず、自分を過度に信頼することは却って危険なことである事をペテロを通して知る事ができます。ペテロがそうでした。

“すると、ペテロがイエスに答えて言った。「たとい全部の者があなたのゆえにつまずいても、私は決してつまずきません。」みなさん、人が失敗し、倒れる時を見ると、自分が強いと、自分には全然問題ないと油断してしまう時が多いのではないのでしょうか。なので、我々はいつも自分は立っていると思う時にこそ、自分の身を慎みながら謙遜に気をつけなければなりません。“ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。”(第一コリント10:12)



三つ目、ペテロは自分の信仰の弱さのため失敗してしまいました。

自分の弱さに打ち勝ち、サタンの様々な誘惑に打ち勝ち、世に打ち勝つ力は信仰にあると聖書は教えて下さっています。そのため、イエス様はペテロや弟子たちのために祈られる時に彼らの信仰が強められるように祈って下さいました。クリスチャンたちに失敗というものは信仰が弱くなる時に襲って来る時が多いのです。ペテロが湖の上を歩いて来られるイエス様に自分もぜひ水の上を歩かせるよう求めた結果、しばらく湖を歩けるようになりましたが、まもなく強い風と荒波を見て恐れてしまい水に沈みかけられておぼれてしまいました。その時、イエス様はペテロの信仰を残念に見ておられこう言われます。“イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」”(マタイ14:31)

ペテロはイエス様より周りを多く見てしまう信仰の弱さがありました。イエスキリストを3度も否定した時、彼はイエス様のみを見上げていたのではなく、目の前にある女のはしだめが大きくなってしまいました。つまり、彼は自分の信仰が弱かったので失敗してしまいました。我々の信仰が強くなれば、様々な誘惑や闘いに打ち勝つ事が出来るでしょう。

“なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。”(第一ヨハネ5:4)

すると我々の信仰をどうやって強められるのでしょうか？信仰は聞くことから始まります。キリストの御言葉を聞く時信仰が生じます。“そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。”(ローマ10:17) 信仰が強められる道は神の御言葉を聞き、それを吟味し、実生活において神の御言葉を用いることしかありません。

へブル人への手紙では神のことばを剣(つるぎ)と言っています。サタンのどんな攻撃にも戦って勝てる剣です。神のことばが私たちの中に満ちる時、我々は悪いものをやつけることができます。

“小さい者たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが御父を知ったからです。父たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが強い者であり、神のみことばが、あなたがたのうちにとどまり、そして、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。”(第一ヨハネ2:14)

四つ目、祈りで武装しなかったため失敗してしまいました。

聖書に出てくる人々が失敗してしまう時は、祈りから離れていた時です。イエス様は最後まで祈られたため、十字架から避けたい誘惑と試みにも打ち勝って、神様のみこころに従う事が出来たのです。ペテロとイエス様の弟子たちは祈りに専念しませんでした。その代表的な場面がゲッセマネのところで弟子たちの姿でした。“それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「あなたがたは、そんなに、一時間でも、わたしといっしょに目をさましていることができなかつたのか。誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです”(マタイ26:40-41)

3. 失敗した者に訪ねて来て、慰め、回復させてくださるイエス様

今日の本文の15節を見て見てください。“彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」”(ヨハネ21:15)

イエス様は失敗と敗北感に捕らわれているペテロに食事を準備して食べさせて下さいました。彼をあたたく慰めてくださるイエス様の愛をペテロは感じる事ができたと思います。そして、ペテロからの愛の告白をされた後、“わたしの羊を飼いなさい”と言われました。イエス様が失敗したペテロから確認したかったことは愛でした。一つだけあれば、すべてが可能だからです。それは愛です。ペテロから愛の確認をされた後、次は使命を託(たく)します。神様の慰めは癒しを越えて、使命を与えることにまで至ります。

実はイエス様はこのようになることを予め、教えて下さいました。

“シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。しかし、わたしは、あなたの信仰がなくなるように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。”(ルカ22:31-32)

ペテロが失敗から立ち直ってからやるべきことは同じく失敗した兄弟たちをも立たせる事でした。失敗しない人より、失敗を経験した人々がむしろもっと謙遜になり、哀れむ事ができます。そして、失敗した人々を深く理解し、助ける事ができます。我々も失敗というものを新しい主の使命として受け止め、仕えるチャンスとして用いるべきだと信じます。

例え)リンカン大統領は失敗を通して勝利した大統領でした。リンカンは‘この世で一番不幸な人’として呼ばれました。彼は4歳に弟の死をみました。彼の妻はほぼ精神異常者でした。二人の息子も彼のもとで死にました。政治にでましたが、何度も落選の苦しみを味わいました。彼の一生は失敗の連続でした。しかし、彼の偉大さは失敗の中で磨かれました。自分が多くの失敗を経験したので、ほかの人の失敗を赦す面においては卓越でした。失敗やあやまちに対して彼はこのように語りました。“私の関心はあなたが失敗したかどうかではなく、あなたがその失敗にとどまっているのかどうかです。成功と失敗は我々の人生においてどれほど高くあがったのかではなく、我々が倒れた時何度、立ち上がったかによって決まります。この時、成功を決めることは再び立ち上がる能力による事なのです。”と言いました。多くの失敗から立ち上がった経験者から与えられる大切な助言(じょげん)でした。神様は失敗したペテロやリンカンを用いて失敗の中で苦しんでいる人々を慰め、癒してくださいます。神様は失敗さえも用いてくださる素晴らしい方なのです。

<結論>

イエス様がつけられた十字架は神様の失敗の場所のようにみえるかも知れません。しかし、神様の恵みは失敗の場所であった十字架の上に臨まれました。その恵みは復活の恵みでした。回復の恵みでした。新しい出発の恵みでした。イエス様の十字架は神様の失敗作のように見えました。しかし、その十字架をとおして復活という傑作が見いだされました。ペテロが受けた恵みはその十字架と復活の恵みでした。彼は失敗をとおして死の経験をしました。そして、イエス様の愛をとおしてもう一度生きていける経験をしました。自分の最悪の失敗を通して最高の傑作を作ってくださいる神様の恵みを経験する事ができました。

今年も愛するみなさんの上ですべてのことに主の恵みが注がれますように祝福します。しかし、願わぬ失敗を経験される時もあると思います。その時は失敗のため落胆しないで下さい。絶望しないでください。

失敗を人生の停止ではなく、方向転換のしるしとして受け止めましょう。もっと賢く、もう一度始めるチャンスです。失敗を自分の訓練のチャンスとして、もっと成長できるチャンスとして受け止めるようにしましょう。ペテロの人生はテベリヤの湖畔(こはん)で復活されたイエス様にふたたび出会うことにより、逆転の人生に変えられました。イエス様は失敗したペテロに現われ、彼を慰め、癒し、彼を成熟させてくださいました。そして、彼の失敗を用いてくださいました。私達も過去の失敗を変えることはできません。しかし、我々の未来はこれからいくらでも変えることができます。

我々の明日を変えるように神様が助けくださるところがイエス様の十字架です。イエス様の十字架に出て行けば、過去の失敗のいたみ、悲しみを触ってくださいるイエス様に会う事ができます。そして、失敗から立ち上がって新しい方向に進むように力をもってくださいます。このような神様の恵みをいただいて、今年も失敗から立ち直って前を力強く進むクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますよう主イエス・キリストの御名によって祝福します。アーメン!

